

## 原子力リスク研究センター (NRRC) 第3回 技術会議 議事概要

1. 日時 2014年10月21日(火) 10:00~12:10
2. 場所 電力中央研究所(大手町本部) 役員大会議室
3. 出席者(順不同、敬称略)

主査: 横尾 (NRRC)

委員: 榎 (北海道電力)、竹島 (東北電力、増子代理)、五十嵐・川村 (東京電力)、服部・名倉 (中部電力)、高橋 (北陸電力)、森中・大石 (関西電力)、山本 (中国電力、岩崎代理)、山田 (四国電力)、馬田 (九州電力、岡野代理)、竹野 (日本原電、石坂代理)、高橋 (日本原燃、大柿代理)、静間 (電源開発)、中田 (東芝、飯倉代理)、今野 (日立 GE)、佐治 (三菱重工)、倉田 (原安進)、示野・座間・酒井・植田・金谷 (NRRC)

NRRC 幹部: 横山

### 4. 議事概要

冒頭、主査より、NRRC が 10 月 1 日に発足し、アポストラキス所長のもとで NRRC のミッションとビジョンが策定され、ウェブサイトにも公開されたことが報告された。

#### (1) 次年度研究計画について

- ・「リスク評価ワーキンググループ (WG 1)」、「自然外部事象ワーキンググループ (WG 2)」の各主査より、次年度研究計画の策定状況について報告された。

(産業界委員からの主な発言)

- ・短期の成果としてどのようなものが、どの時期に出てくるか見えるようにしてほしい。
- ・HRA(人間信頼性評価)については福島第一の事故の経験をもとに、シビアアクシデント時の人間信頼性の話を議論する必要がある。
- ・将来の研究については研究を進めていく中で方向性を決めていくということもあると思うが、できるだけ先を見通して成果のイメージが湧くようにしてほしい。
- ・電力が実際に行っている研究の成果ともマッチングさせていくとよい。
- ・技術課題については現場が自力で問題解決に至るケースもあり、各電力の現場の活動をフレキシブルに取り込める仕組みがあるとよい。
- ・個別研究へのメーカーの関与の仕方について、これまでの蓄積を活かせ

るところは積極的に関与していきたい。

(NRRC からの主な発言)

- ・ロードマップについては、毎年 PDCA を回すこととしており、各電力の活動をうまく取り込んでいきたいと考えている。
- ・先を見据えた研究については、具体的な目標を立て、何が達成できるかを明記していきたい。

(3) NRRC の当面の活動予定について

- ・NRRC 委員より、第 1 回技術諮問委員会の準備状況等について報告された。

(産業界委員からの主な意見)

- ・センターが研究成果・知見を対外的に情報発信していく上で、都度電力各社へ開示許可を取るのではなく、効率的な仕組みを考えていく必要がある。

以上